

しがこうえん  
志賀公園遺跡

**調査の経緯** 発掘調査は住宅建設に伴う事前調査で、住宅・都市整備公団より愛知県教育委員会を通じた委託事業として本年度から実施している。本年度の調査は試掘調査を含めて5,000㎡行っている。

隣接する遺跡としては、南側に志賀公園遺跡と志賀城跡（いずれも志賀公園内）そして南西側に西志賀遺跡がある。志賀公園遺跡は今回の調査までに志賀公園造成時（昭和5年愛知県）と名古屋市教育委員会により3回行われている。今回の調査は本調査を住宅建設部分の4ヶ所をA～D区とし、試掘調査は来年度調査予定地を中心に行った。なお標高は現況で5m前後を測る。

**調査の概要** 遺跡は工場跡地のため、構造物の基礎で破壊を受けている箇所もいくつか認められるが概ね良好な状態で確認できた。遺構は大きく古墳時代、古代、中世～戦国、近世に分けられる。以下、A区とD区を中心に記す。

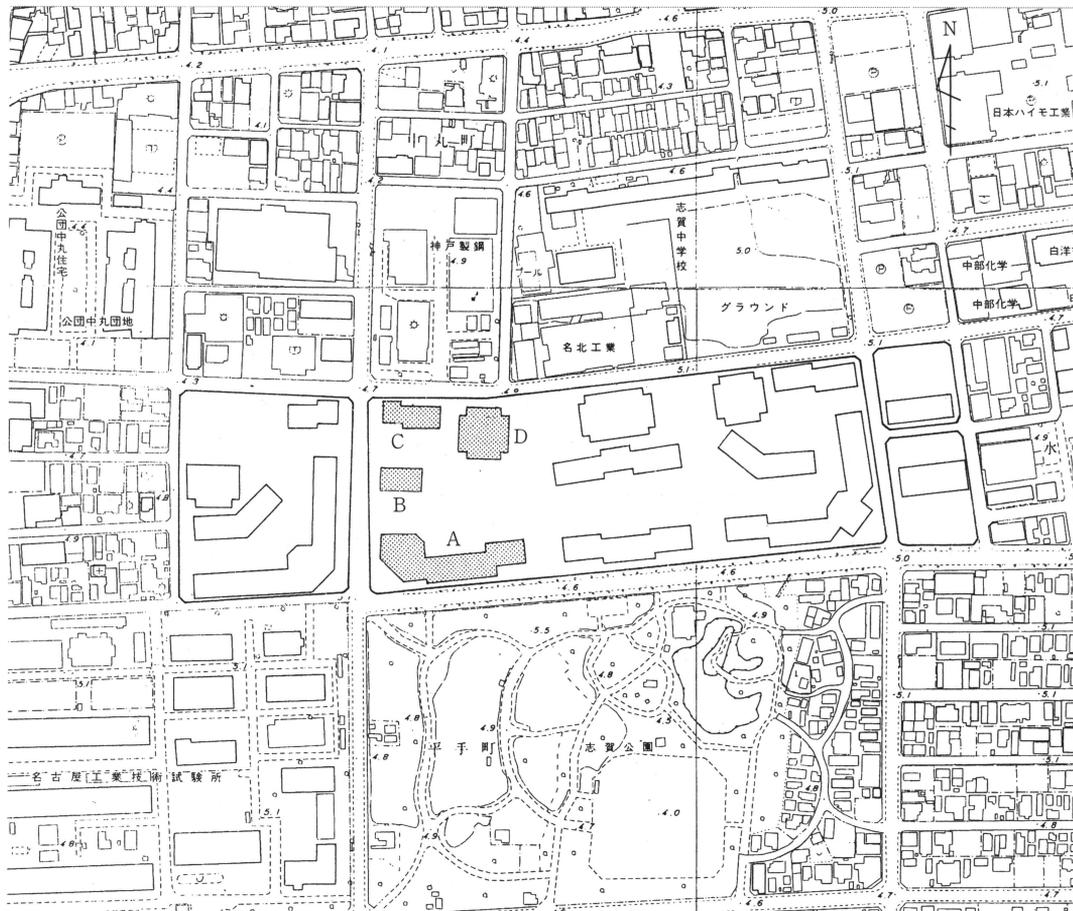
**A 区** 工場造成時および近現代の水田土を取り除いた時点で調査区を東西方向に縦断する2条の溝が確認された。これら2条の溝は『明治17年地籍図』にもみられる村境と一致する。北側が光音寺村、南側が西志賀村となる。2条の溝は切り合い関係があり同時期ではないものの、少量ながら出土した遺物から近世と考えられる。

これら境溝を含め近世の耕作土を取り払うと南に隣接する志賀城跡に関連する遺構群が確認できる。その範囲は調査区を東西に縦断する大溝（SD06）を北限とし、志賀城側（南）に認められる。この大溝は幅約10m深さ約1mで、志賀城とその周りを取り囲む居住域などの北端に相当すると考えられる。遺物は15世紀～16世紀にかけての陶器・土師器を中心に、大溝掘削以前の13世紀前後の灰釉系陶器・土師器、7世紀前後の須恵器・土師器が溝の基底部付近に集中して確認された。

大溝以外の遺構としては、溝3条、井戸2基を確認した。大溝と規模の近いSD09は大溝に接して南側に続く。このSD09の東側には東西方向を基本とし、クランク状に連続するSD07・08がある。さらにSD08の南接して導水路をもつ井戸（SK02・06）を確認した。SK02はタガが遺存することから井筒部分に桶が使用されていたと考えられる。いずれも15～16世紀にかけての陶器・土師器を中心とする遺物が出土しており、大溝とほぼ同時期の遺構群といえる。

**D 区** D区では古墳時代から中世まで、都合4面にわたり遺構を確認した。

第1面は古代と中世が同一面となったのは近世以降の水田（蓮田?）により削平されていたため、井戸など比較的深度のある遺構のみが残存している。中世については、遺構・遺物ともに量的には少なく、井戸2基と堀立柱建物を確認したのみ。遺物は14世紀前後のものが出土した。古代については、遺構として確認できたのは土坑1基のみ。その他は完形品に近い遺物が所々集中する程度でほとんどが削平され遺構として確認できない。遺物は8世紀代が中心となる。



第1図 調査区位置図 (1:5000)



A区中世・戦国完掘状況



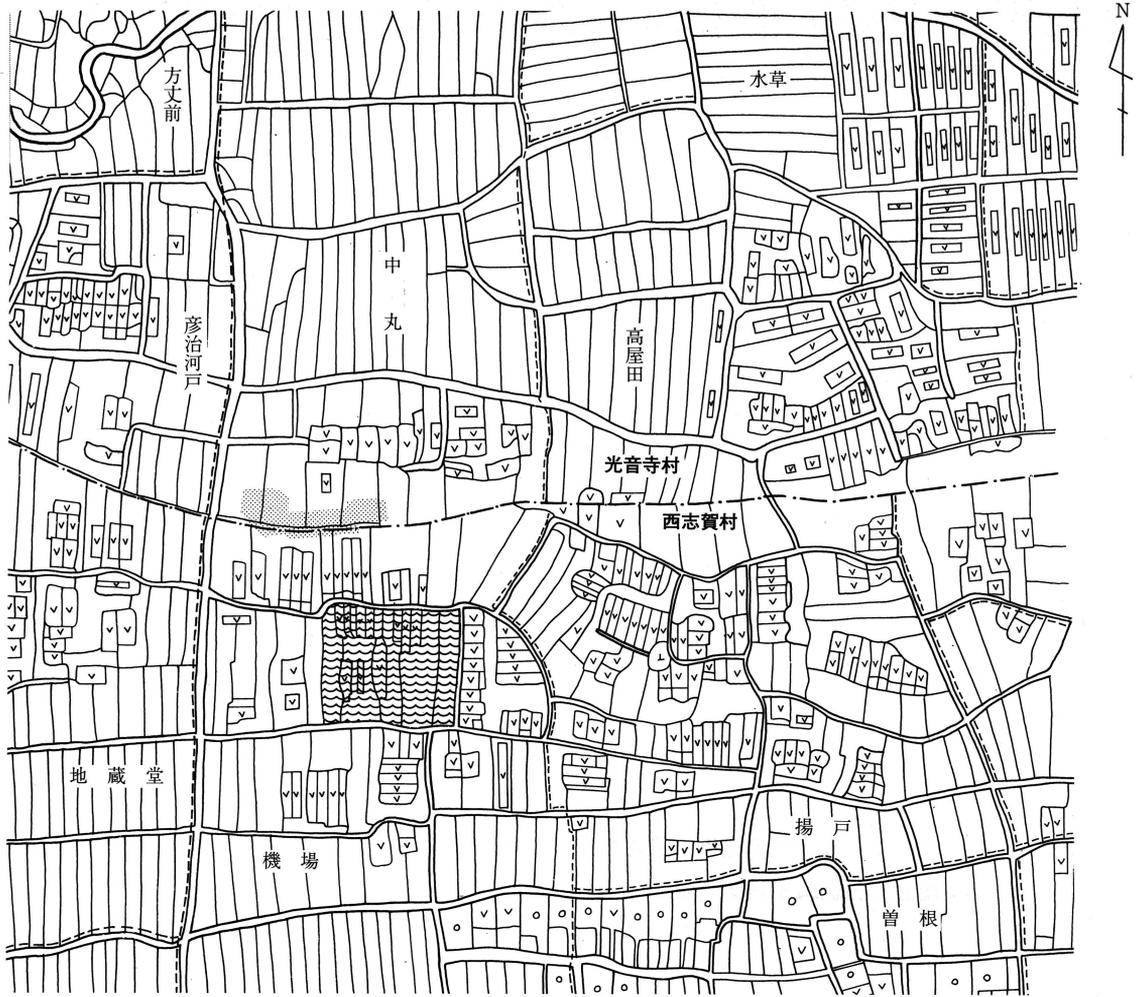
A区S D06セクション



D区古代上層遺構完掘状況

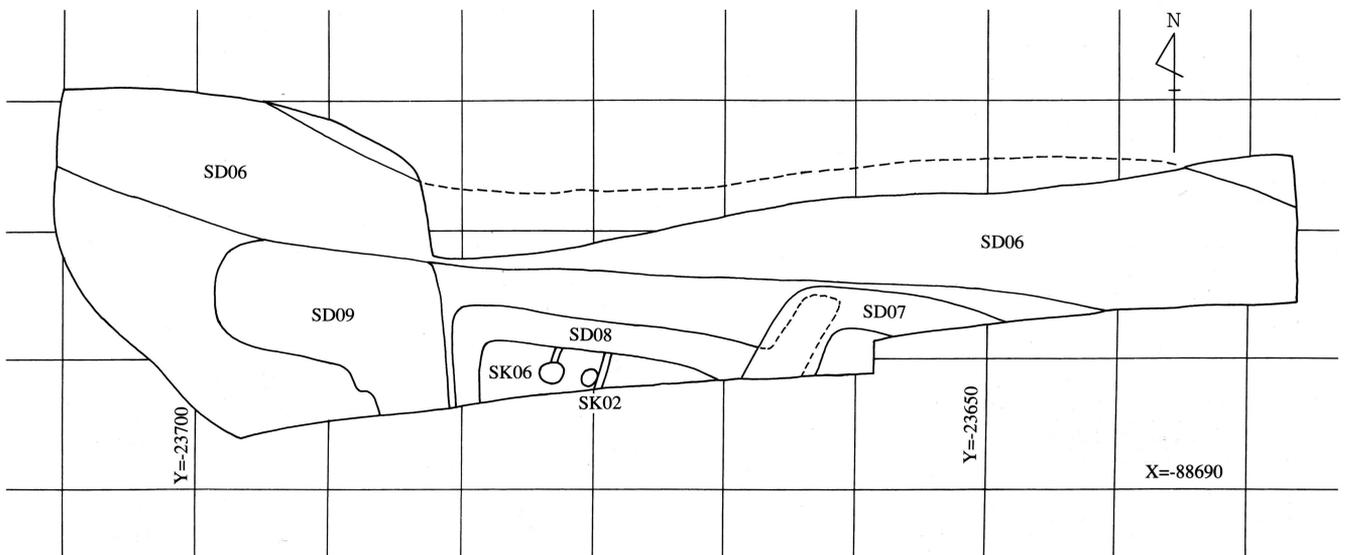


D区旧流路完掘状況



第2図 光音寺村・西志賀村地籍図（1：5000）

点トーンはA区を、波トーンは天保年間に作製された村絵図に「字城土井」として描かれた範囲を示す。



第3図 A区中世・戦国期遺構図（1：600）

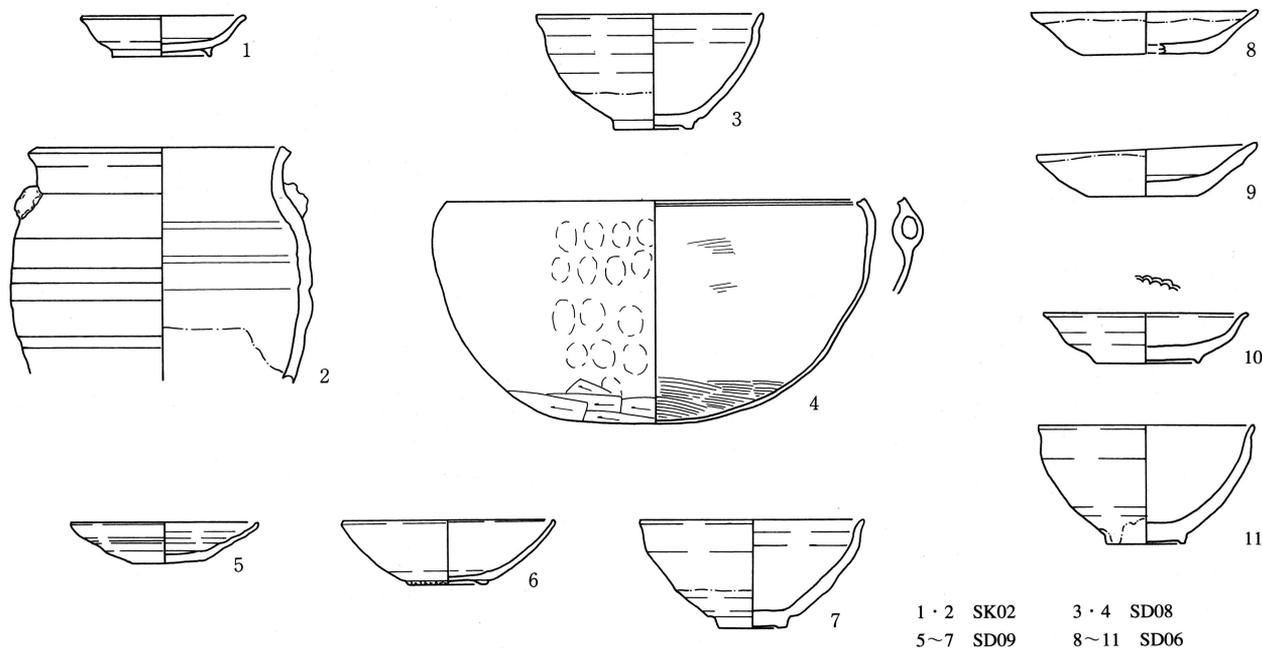
第2・3面は7世紀代の遺構が10 cm前後の堆積で分かれる。第2面では遺構の配置から2時期が想定できる。竪穴住居群とこれらの南側を弧状にめぐり、調査区の北側をL字にめぐり、これに規制された堀立柱建物や土坑群。第3面では第2面のL字溝とほぼ重複しながらめぐり、堀立柱建物などを検出した。遺物の詳細な検討は今後となるが、おおよそ第2面が7世紀後半、第3面が7世紀前半となる。

第4面は調査区の南側から北東に向かって蛇行する古墳時代の旧流路を検出した。流路の堆積は基本的に砂層、上位の粗粒砂層に遺物が比較的まとまっていた。遺物の時期は松河戸様式を中心に廻間様式から宇田様式までのものを含む。また、調査区北東、旧流路左岸に焼土と完形品の遺物が集中する地点を確認した。遺物は松河戸様式に相当し、「水辺の祭祀」を想起させる。

まとめ 今回の調査で以下の成果が明らかになった。

- (1) A区で近世の村境に関する溝を確認した。
- (2) 志賀城に関わる遺構・遺物を確認した。特にA区を東西に縦断する大溝は志賀城関連遺構の北端となる。
- (3) 7～8世紀の遺構・遺物を確認した。遺物に須恵器大甕の出土頻度が高いことや瓦も認められることから今後の調査により、官衙・寺院あるいは矢田川と庄内川の合流点に近いことから津港など集落遺跡とは異なる遺構群が期待できる。
- (4) 4～5世紀の遺構・遺物を確認した。今回はD区より旧流路とその岸辺の土器集積を確認したのみではあるが、遺構面として安定した層位は存在する。今後の調査で集落域・古墳などが期待できる。

(福岡晃彦・伊藤秀紀・永井宏幸)



第4図 A区出土遺物実測図(1:4)